

社会科シラバス 高校2年

1. 学習の到達目標と評価の観点

(科目) 日本史特講	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	2単位	第2学年	『日本史探究』実教出版（教科書） 『新詳日本史』浜松書店（図説） 『日本史探究 マイノート』実教出版（副教材）
学習の到達目標	- 資料の読み取りを通して真理を追究していこうとする姿勢や、得られた知識・技能を実社会に役立てようとする意欲を養う。〔Science〕 - 日本の今日の姿や歴史・文化などに対する理解を深め、日本に関する情報や、日本に生活の基盤を置くものとしての自分の考えや価値観を世界に向けて発信できる力を養う。〔Global〕 - 歴史の学習を通して獲得した知識を他の分野に関する知識と有機的に結び付けることによって教養を高め、人間力を養いながら感性を磨き、心豊かな人生を送るための基盤をつくる。〔Liberal Arts〕		
評価の観点	授業に前向きに取り組み、「なぜこのような文化的な事象が生まれたのか」といった興味・関心を持ち、知識を活用し、他者と協働しながら、興味・関心を持った事項について探究を深めようとする姿勢がある。＜主体性・多様性・協働性＞ 日本の歴史を学びながら、それぞれの出来事を比べたり、たがいのつながりや影響を探究したりして、自分の考えを発信することができる。項目をただ暗記するのではなく、「原因→経過→結果」という因果関係をつかむことで、時代の動きを実感できる力を持っている。＜思考力・判断力・表現力＞ 文献資料や表・グラフを読みとったり、絵画・写真資料などを解説したり、それに考察を加えたりするために必要な知識・技能を身につけている。＜知識・技能＞		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

A：「十分満足できる」状況と判断されるもの

B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの

C：「努力を要する」状況と判断されるもの

D：未提出、未実施

2、学習内容及び評価方法

時期	単元	学習のねらい・到達目標
1 学期 中間まで	古代～中世にかけての社会的 情勢と文化史の関連について	・古墳時代から天平期における文化の特質について、当時の日本の政治史・外交史と関連付けて説明できる。
1 学期 期末まで	古代～中世にかけての社会的 情勢と文化史の関連について	・弘仁貞観期から院政期における文化の特質について、当時の日本の政治史・外交史と関連付けて説明できる。
2 学期 中間まで	中世～近世にかけての社会的 情勢と文化史の関連について	・鎌倉時代～室町時代～桃山時代の文化について、民衆のエネルギーが社会を動かしていくようになる時代の変化と関連付けて説明できる。
2 学期 期末まで	近世の社会的情勢と文化史 の関連について	・江戸時代の文化について、農業をはじめとする諸産業の発展や交通網の整備などと関連付けて説明できる。 ・江戸時代の文化について、これまでの時代の文化と比較しながら、民衆文化が花開いたことを説明できる。
3 学期 期末まで	近・現代の社会的情勢と文化 史の関連について	・近・現代の文化について、激変する社会の動きと関連付けて説明できる。 ・日本の文化に対する自分の考えや意見を記述する形で表すことができる

評価の観点及び内容	評価方法（具体例）
教員の発問に対し、積極的に取り組んでいる。周りのクラスメイトと主体的に意見の交換をする様子がみられる。＜主体性・多様性・協働性＞	loilo 課題（提出）
設定された課題に対する自分の考えを、他者にも読み取れるように適切に説明することができる。＜思考力・判断力・表現力＞	loilo 課題（内容）、定期考査
歴史的な知識を身につけられている＜知識・技能＞	定期考査

